

ISNUMBER関数

使い方マスターガイド



※当ガイドに従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。

ISNUMBER関数の「役割」と「落とし穴」

ISNUMBER関数の「役割」と「落とし穴」

ISNUMBER関数は、対象が「数値」であれば TRUE、それ以外なら FALSE を返すシンプルな関数です。しかし、Excelには「見た目は数字だが、実は文字列」という厄介なデータが存在します。

=ISNUMBER(テストの対象)

テストの対象 (A1セルの値)	数式 =ISNUMBER(A1) の結果	判定
123 (数値)	TRUE	数値として計算 できる
"123" (文字列)	FALSE	数値として計算 できない
"あいう" (文字列)	FALSE	-
2025/10/1 (日付)	TRUE	日付は「シリアル値 (数値)」なのでTRUE



ポイント: VLOOKUPなどで取ってきたデータが「計算できない!」という時、ISNUMBERでチェックすると「実は文字列だった」というデータ型の問題を特定できます。純粋な数値データ型だけを TRUE と返すために、計算可能な値であっても文字列の場合には FALSE を返す点が ISNUMBER の落とし穴です。

【実践①】

IF関数と組み合わせて「計算エラー」を防ぐ

【実践①】 「満年齢」を自動計算する

請求書などで「単価」や「数量」に誤って文字が入力されていると、計算結果がエラー（#VALUE!）になってしまいます。ISNUMBER関数で事前にチェックすることで、エラーを防ぎ、見た目をきれいに保つことができます。

シナリオ： A2（単価）とB2（数量）が「両方とも数値」の場合だけ掛け算し、それ以外は空白にする。

数式： `=IF(AND(ISNUMBER(A2), ISNUMBER(B2)), A2*B2, "")`

解説：

1. `ISNUMBER(A2)` と `ISNUMBER(B2)` で両方のセルをチェック
2. `AND`関数で「両方TRUEか？」を判定
3. `IF`関数で、OKなら計算実行、NGなら空白（""）を表示

【実践②】

FIND関数と組み合わせて「〇〇を含む」を判定

【実践②】 FIND関数と組み合わせて「〇〇を含む」を判定

ISNUMBER関数の最も実務的な応用テクニックです。「特定の文字を含んでいるか？」を判定するために、FIND関数（またはSEARCH関数）と組み合わせます。大文字・小文字を区別せず検索したい場合は、FINDの代わりにSEARCHを使用しましょう。

数式例（A2セルに "東京" が含まれていれば "〇"）: `=IF(ISNUMBER(FIND("東京", A2)), "〇", "×")`

ロジックの仕組み:

1. `FIND("東京", A2)` : 「東京」がA2セルの何文字目にあるかを探す。
見つければ → 「1」などの 数値 が返る。
見つからなければ → #VALUE! エラー が返る。
2. `ISNUMBER(...)` : FINDの結果が「数値」かどうかを判定する。

数値（見つかった） → **TRUE**

エラー（見つからない） → **FALSE**

【実践③】 入力規則で「数値以外」を禁止する

【実践③】 入力規則で「数値以外」を禁止する

セルに計算式を入れるのではなく、「データの入力規則」機能を使って、最初から数値以外の入力をブロックすることも可能です。

手順:

1. 制限したいセル範囲を選択
2. [データ] タブ > [データの入力規則] をクリック
3. [設定] タブ の「許可」で「カスタム」を選択
4. [数式] ボックスに以下を入力: `=ISNUMBER(A1)` (※A1は選択範囲の先頭セル)

結果: TRUE を返した場合(つまり数値の場合)のみ、入力を許可することで、そのセルに「文字」を入力しようとするとエラーメッセージが表示され、入力できなくなります。半角数字のみを入力させたい管理表などで非常に有効です。

【免責】

※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。

※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。また当資料は、公開日時点の内容となっております。最新の情報、実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。